

# 史跡めぐり 御笠の森と日田街道をたずねる

日田街道は、江戸時代に整備され、博多と日田（大分県）をつなぐ北部九州の大動脈でした。多くの人も・情報が行き交い、大変にぎわっていたそうです。

この日田街道を通り、今年も日本遺産『古代日本の「西の都」〜東アジアとの交流拠点〜』の構成文化財の一つである御笠の森を巡ります。

周辺の文化財を見学し、当時の面影を感じてみませんか。

●日時 10月15日(土) 午前9時半～午後0時半(受付 午前9時10分～)



御笠の森での解説の様子

※当日午前7時前のNHK天気予報で降水確率60%を超えた場合は中止します。分らない場合は、市コールセンター(☎501)2211)に問い合わせてください。

●集合と解散場所 心のふるさと館 1階 ロビー

●主な行程 市役所の桑の木↓新川跡 ↓筒井の井戸↓春日原停留所・運動場道之碑↓御茶屋跡↓郡境界標↓恵比須神社↓木造聖観音立像↓御笠の森

●定員 20人(申込多数の場合は抽選)

●服装 動きやすい服・靴

※飲み物などは各自で持ってきてください。

●申込方法 ◇申込フォーム◇はがき◇FAX◇心のふるさと館総合案内窓口

(氏名・年齢・住所・電話番号を記入)

申込フォーム

心のふるさと館文化財担当(平日 午前8時半～午後5時)



申込フォーム

●申込期間 9月20日(火)～30日(金)

●申し込みと問い合わせ先

心のふるさと館文化財担当(平日 午前8時半～午後5時)

☎(558)2206

## あけてみよう！ 歴史のとびら 調査担当者が語る！大野城発掘物語

156

### 《地下に眠る白木原ベースの思い出》 《御供田遺跡》

JR大野城駅の西口を出て、九州大学筑紫キャンパスへ向かう途中、広い空き地が見えてきます。敷地に目を移すと、鳥居型電柱がポツンと立っています。木製で、少なくとも半世紀以上前に立てられたものです。この周辺には、かつて板付基地に所属する米兵やその家族が暮らした「春日原住宅地区(通称、白木原ベース)」が広がっていました。ここには住宅のほか、病院、学校、野球場から映画館までありました。基地返還から50年が経った今、この電柱は当時を物語る数少ない証人というわけです。

令和3年の夏、電柱周辺の発掘調査が始まりました。開始早々、予想外のものが顔を出しました。長さ5mの貯油タンクです。当時の施設配置図を見ると、給油所の真下のようなのです。その後も配管などが多数見つかりました。どんな役割のものか、見当もつきません。そこで、建築や設備の専門家に現地を見てもらうことにしました。

案内する中で、調査区の壁から突き

出ていた小さな配管が目が止まりました。「これはセントラルヒーティングの配管ではないでしょうか。」セントラルヒーティングとは、ボイラーで発生させた蒸気が各部屋の配管をめぐることで暖をとる、欧米では一般的な暖房方式です。よく見ると配管は断熱用のタールで覆われていました。暖房の燃料には重油が使われており、見つけたタンクからボイラーへ供給されたのでは、という想定もできました。

配管一つにも、当時の暮らしを明らかにするヒントが隠されていたことの驚きと、ここには確かにアメリカがあったのだ、という感動がありました。今年も基地返還から50年の節目。白木原ベースの思い出は、私たちの足元に今でも眠っているのです。

●問い合わせ先

心のふるさと館文化財担当

☎(558)2206



見つかった貯油タンク